

東松島復興推進員だより(第37号)

東松島市地域復興推進員(JICA 東北)

京野 宏美

皆さんこんにちは。今回は、我々推進員が行った異文化交流の出前講座について報告させていただきます。

【「わらすっこクラブ」第5回学習会に出前講座『異文化交流会』を実施】

2019年1月12日、東松島市矢本西センターにて、出前講座「異文化交流会」を実施しました。矢本西市民センターが実施する小学生を対象とした生涯学習事業「わらすっこクラブ」の中で、JICAが実施する国際理解出前講座として実施した交流会です。

「わらすっこ」とは、「童(わらし)」からくる宮城の方言で、子どものことを愛情こめて言い表すことばです。当日は、東松島市矢本西地区の小学生11名の「わらすっこ」が参加してくれました。

今回の講師は、モロッコ出身のスマッヤ・アッドーさん(JICA長期研修員/東北大学大学院)と、昨年10月まで2年間、キルギスでJICA青年海外協力隊として活動し、昨年11月から東松島市地域復興推進員に着任した岩崎未来推進員です。スマッヤさんに講師をしていただくのは、昨年9月に東松島市野蒜で実施した出前講座「異文化ミーティング～比べてみよう、奥松島と外国の文化～」に続いて2回目です。

(※講師の二人について詳しくは推進員だより第35号、36号をご覧ください。)

異文化交流会では、このお二人に、それぞれモロッコとキルギスについて、国や文化の紹介をしていただきました。

【モロッコとキルギスについて知る】

モロッコ出身のスマッヤさんは、母国の自然や文化、その他にも様々なことを、日本語で説明してくれました。漁業が盛んで日本にもタコ・イカ・マグロなどを輸出していることや、ビー玉やかくれんぼ等の子どもの遊び、またきらびやかな民族衣装や、日本の琵琶(びわ)によく似た「ウード」という楽器について、そして空手や柔道も人気のスポーツであることなどを、美しい写真を使いながら紹介してくれました。

スマッヤさんが「モロッコにもサッカーをする子どもはたくさんいます。私も子どもの頃はサッカーをして楽しんでいましたよ」と話すと、子どもたちも「日本と同じだね」とつぶやくなど、モロッコに興味を持ってくれたようでした。



スマッヤさんによる日本語でのモロッコの紹介に、子どもたちも職員さんも聞き入っていました。

岩崎推進員は、キルギス国の紹介の他、民族楽器「コムズ」について実物を見せながら説明しました。

コムズは、アンズやクルミ、ケヤキ等の木から作られたキルギスの民族楽器です。世界一長い叙事詩として知られている、民族の英雄『マナス』の物語を口承で伝える「マナスチ」が語り部をする際や、人が集まるめでたい席(例：結婚式、国民行事等)では必ず演奏されるなど、国民に広く愛されている楽器です。子どもたちは、岩崎推進員の演奏するコムズの『幸せなら手をたたこう』に合わせ手拍子をするなど、異国の楽器の音色を楽しんでいました。



←キルギスの国旗を持って文化紹介をする岩崎推進員。



コムズの演奏にあわせて「クラップ！クラップ！」と手拍子。↗

【遊びながら異文化交流 ～アラビア語とロシア語でワールドバスケットゲーム～】

日本ではおなじみの椅子とりゲームの『フルーツバスケット』を、今回はモロッコで話されているアラビア語と、キルギスで話されているロシア語を交えて「ワールドバスケット」として行いました。赤・青・黄色の3グループに分かれた後、オニ役をひとり決めます。オニ役の人はアラビア語またはロシア語で「赤」「青」「黄色」を指すことばを言います。例えば、オニ役がアラビア語で「アフマル！」と叫ぶと赤グループの子どもたちが、ロシア語で「シニー！」と叫ぶと青グループの子どもたちが立ち上がり、座る椅子を求めて一斉に動きます。ゲームには、子どもたちだけでなく、講師のスマッヤさんと私たち推進員、市民センターの職員の皆さんも加わり、慣れないモロッコとキルギスの言葉を使いながらもにぎやかなゲームとなりました。

今回の異文化交流会では、モロッコとキルギスの2つの国について学び、ゲームも取り入れることで、子どもたちも楽しく海外の国を知り、交流できたのではないかと思います。子どもたちからは「モロッコやキルギスの文化やことばを知って面白かった」との感想を聞くこともでき、外国の文化やことばについて興味を持った様子が見られました。また交流会の最後には子どもたちからも、お正月の過ごし方といった日本の文化についてスマッヤさんに伝える場面もあるなど、お互いの文化を紹介しあえた交流会になりました。



質問に答える講師のスマッヤさんと、岩崎推進員



終了後のティータイムにて「なんだか苦くてスースーする」とつぶやく子どもたち。モロッコではポピュラーなミントティーに挑戦するも、子どもたちにはちょっと大人の味だったようです。

もうすぐ東日本大震災から8年となります。東松島市では、震災を忘れず、復興を進めるために、市も地域の方々も懸命に取り組んでいます。私たち推進員はこれからも、災害に負けない持続可能なまちづくりを支えていきたいと思っています。